



Noguchi Times

Vol. 26 2019.10.17



2019年7月28日 医学教育特別セミナー 懇親会にて

CONTENTS

■野口ビジネス交流会2019年夏		P2
■埼玉県さいたま市食育セミナー		P3
■管理栄養士スキルアップ研修		P4
■トーマス・ジェファークソン大学表彰式		P5
■2019年度 医学教育特別セミナー		P6
■2019年度 第2回野口フェロー講演会のお知らせ		P7
■新商品『昔ながら おとなの肝油ドロップ』のご紹介		P7

『野口ビジネス交流会2019年夏』

2019年7月4日（木） 於：野口医学研究所 セミナールーム

野口ビジネス交流会2019年夏では、堀江司郎氏にご講演頂きました。以下ご報告致します。

『加速するインバウンドビジネスの現状』



株式会社やまところ
シニアコンサルタント 堀江 司郎氏

株式会社リクルート、イーソリューションズ株式会社を経て、インフィニティ・コミュニケーションズ株式会社の代表として、官民のインバウンドプロモーションなど業界経験10年以上。

《主な内容》

東京オリンピックの決定、富士山の世界遺産の登録、和食のユネスコ文化遺産の登録等、歴史的な年であった2013年から、日本では訪日観光客が右肩上がりに上昇し、2018年には3,000万人を突破しました。

ここまで訪日観光客が増えた背景には、タイ・マレーシア・フィリピン・インドネシア等、東南アジアを中心とした経済発展が著しい国に対するビザ(査証)の緩和があります。又、Low Cost Carrierの就航や国を挙げてのPR事業である“Visit Japan”の推進も観光客増加の要因です。

地球規模で海外旅行市場が拡大している現在ですが、今後も日本では2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年には関西ワールドマスターズゲームズと、ゴールドデン・スポーツイヤーズの到来をきっかけとして、更なるインバウンド需要を見込むことができます。

市場の変化としては、訪日客のリピーター率が60%となり、団体旅行から個人旅行へシフトする方が多く、訪問先も都市から地方が目されるようになってきました。そこで、自然体験やスキーを代表とするウィンタースポーツを楽しむ人が増え、モノ消費からコト消費へと娯楽サービスの購入率がアップし始めています。

日本での受け入れ体制としては、クレジットカードやQR決済の実施、無料Wi-Fi設置を始めとするインターネット環境の整備、外国語による多言語表示などが必要です。又、観光施設におけるスタッフの語学力向上やインバウンドに関するノウハウ、成功、失敗事例の情報を共有することが海外旅行者の不満を解消することに繋がります。

日本には、自然豊かな土地でのサイクリングや四季を楽しむツアーなど魅力的なコンテンツが沢山ありますが、外国人が買いやすい、興味を示しやすいような商品化が為されていないことが一番の課題です。今後は、国内の既存商品を外国人目線でとらえ直し、価値あるものに变化させていく商品企画力がインバウンドビジネスのカギとなりえるでしょう。

訪日外国人 4000万人へのロードマップ



出典：日本政府観光局

やまところ.jp

訪日外国人客数は、2012年からの5年間で4倍に迫る勢いで成長しており、「2020年に4,000万人」という国の目標達成も現実味を帯びています。



《講演中の様子》

『埼玉県さいたま市食育セミナー』

埼玉県さいたま市スポーツ協会様からのご依頼により、乳児を対象とした個別栄養相談、スポーツ少年団に在籍している小学5年生の保護者の方を対象とした食育セミナーを行いました。

2019年7月13日(土) 於：サイデン化学アリーナ

乳児に対する個別栄養相談



生まれて初めて
の大運動会！

8ヵ月～1歳のお子様に参加する「はいはいレース」の開催に併せ、保護者の方へ個別栄養相談会を行いました。相談を受けた管理栄養士は、自身も子供をもつベテランママの為、体験談をふまえながら、食事に対するアドバイスとともに育児のお悩みについても回答しました。相談を受けた方は、「話ができて安心しました」とほっとされた様子でした。



-主な相談内容-



個別栄養相談の様子



はいはいレースの様子

保育園で2食、お家で
朝夜2食の合計4食。
食べ過ぎですか？

保育園でいつもおかわり。
家でもおかわりの要求が止まらない。どうしたら良いですか？

遊びながら食べてしまう。
そのまま食べさせ続けたほうが良いのでしょうか？



2019年7月20日(土) 於：ときわ会館

青少年育成に必要な食育



スポーツ少年団に在籍している小学5年生の保護者の方に向けて、食事の基本についてお話をしました。スポーツをする子どもたちに特に気をつけてほしい栄養素や水分の摂り方、またプロテインやスポーツドリンクの使い分けについてもお伝えし、早速試してみたいというお声を頂きました。



集団栄養指導の様子



講師の管理栄養士



個別栄養相談の様子

130人の保護者の皆さんが参加されました！

より実践的に運動時に使える知識として、食事や水分をとるタイミング、スポーツドリンクの使い分け等をお伝えしました。



-相談内容(一部)-

試合の休憩時間等、限られた時間内でしっかり栄養をとってほしい。どんな工夫が必要でしょうか。

『管理栄養士スキルアップ研修』

2019年5月13日～24日 於：株式会社めいとケア

野口医学研究所の管理栄養士2名が、介護福祉事業を営んでいるめいとケアグループで管理栄養士のスキルアップ研修を受けました。

研修内容

- ・施設見学/会議の参加
- ・接遇研修/救命講習
- ・献立作成
- ・利用者様へのリーフレット作成
- ・日本食研展示会への参加



▲研修中の利用者様との対話

施設でのお食事

施設で提供するお食事は、献立作成時から注意すべき大切なポイントがあります。

- ①食事の時間を考える。
- ②コストを考える。
- ③入居者様の摂食機能を考慮する。
- ④料理の組み合わせ・食材・味付けがかぶらないようにする。

例：あんかけ豆腐ハンバーグ

食形態	常食	きざみ	極きざみ
写真			
嚙食者の特徴	歯で噛み切る事が出来る方	咀嚼だけではなく、嚥下の問題があり、粗刻みのサイズでは大きい方	何とか咀嚼力が残っている方でペーストにするほどでもない方
形態の特徴	ナイフが無くても食べることができる大きさ	1cm各の大きさ	5mm程度の大きさ

温度が冷めない様に保温器を用いる。色も、内側が黒い物を用いる事で入居者様が食品を認識できる様に工夫されている。



左：保温食器 右：メラミン食器

研修での気づき



▲グランドめいと北小金 入口前にて

研修中は接遇や救命講習等様々なことを学びましたが、特に献立作成が管理栄養士としてとても勉強になりました。実際に献立をたてる際は、食材や調理法が重ならない様に工夫を図ることはもちろん、レトルト食品や冷凍食品を用いることで、コストの低下や作業時間を省くことができます。また、現場の状況を想像し、調理の方と対話するコミュニケーション力を身につけることが重要だと思いました。

●野口医学研究所

写真：管理栄養士(左)小林 真李子(右)樋口 朋

『トーマス・ジェファソン大学 表彰式』

2019年7月17日(水) 於：トーマス・ジェファソン大学

トーマス・ジェファソン大学（以下、TJU）より、米国財団法人野口医学研究所（以下、米財野口）創立者・名誉理事の浅野嘉久へ、現在に至るまでの医学交流への献身に対し、感謝の意を表してセレモニーが開催されました。



WELCOME

Elizabeth A. Dale, EdD, MPA ...①
Executive Vice President and Chief Advancement Officer
Thomas Jefferson University and Jefferson Health

REMARKS

Mark L. Tykocinski, MD ...②
Provost and Executive Vice President for Academic Affairs
Thomas Jefferson University
Anthony F. and Gertrude M. DePalma Dean
Sidney Kimmel Medical College

Charles A. Pohl, MD ...③
Vice Provost for Student Affairs and
Director of The Jefferson Japan Center, Thomas Jefferson University
Vice Dean for Student Affairs and Career Counseling and
Professor of Pediatrics, Sidney Kimmel Medical College at
Thomas Jefferson University

Takami Sato, MD, PhD ...④
K. Hasumi, MD Professor of Medical Oncology
Director, Metastatic Uveal Melanoma Program

Joseph Gonnella, MD ...⑤
Distinguished Professor,
Dean Emeritus, and Director
Department of Medicine
Thomas Jefferson University

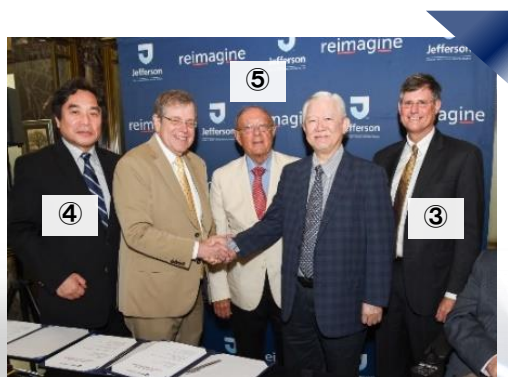
RESPONSE

Yoshihisa Asano, PhD, DPH
Founder and Chairman Emeritus, Noguchi Medical Research Institute

CEREMONIAL GIFT SIGNING

CLOSING REMARKS

Mark L. Tykocinski, MD
Reception to Follow



▲講演された先生方

式典は、TJUの副学長であるMs. Elizabethのご挨拶から始まり、医学部長 Dr. Tykocinskiやジャパンセンターの部長であるDr. Pohl、米財野口の評議員会会長、TJUの腫瘍内科教授である佐藤 隆美先生、又長年に亘り米財野口とのフレンドシップを存続させたキーパーソンである元医学部長、名誉教授のDr. Gonnellaより一言ずつ、野口医学研究所に対する感謝のコメントを頂きました。

▲表彰式のプログラム



米国財団法人野口医学研究所
創立者・名誉理事

浅野嘉久

TJUの名誉医学部長であるJoe（Dr. Gonnella先生の愛称）とは、日米の医学交流を発展させる為に深い関係を築き、35年に亘って親しくしています。米財野口の設立から現在に至るまで、“Humanity & Empathy in Medicine”の理念に基づいた医療従事者の育成に尽力して来ました。これからもTJUとは良好な関係を保ちながら日米の医学交流発展の為、走り続けます。

『2019年度 医学教育特別セミナー』

2019年7月28日(水) 於：京都大学医学部芝蘭会館内稲盛ホール

米国財団法人野口医学研究所は、トーマス・ジェファソン大学の先生方を招き、『アメリカ医学教育の現状と展望～卒前から卒後教育まで』というテーマで講演会を行いました。

■テーマ『アメリカ医学教育の現状と展望～卒前から卒後教育まで』

Overview of medical education in the United States.



Charles A. Pohl
TJU 副学長副医学部長

概要 21世紀の医学教育について

参加者の声

医学教育のパラダイムシフトが良く分かり、考え方の参考になりました。

Innovative teaching methods to engage adult learners in the health professions.

概要 映像による体験学習について

参加者の声

gamificationは大変興味をもちました。方法論として新たにアイディアとして利用できるものが多いと思う。とても刺激的でした。



Dimitrios Papanagnou
TJU 副医学部長

Curriculum reform at a large US medical college.



Steven Herrine
TJU 副医学部長

概要 米国の大学病院における具体的なカリキュラムについて

参加者の声

多くの有能で熱意あるFacultyとともに、学習者の能力の向上を求めるプログラムが参考になりました。

Outcome research in medical education: Jefferson longitudinal study

概要 医学教育の概要について

参加者の声

教育は研究である！Empathyも患者さんの結果につながっているということが素晴らしいと思いました。



Joseph S. Gonnella
TJU 名誉医学部長
元ACGMAE顧問

“Experiments in medical education and their outcomes”

トーマス・ジェファソン大学における医学教育は、講師と生徒が対面で行う形式が一般的でしたが、2000年代に入りITが普及するとともに、AIを活用することが多くなりました。徐々にトレーニング方法が変化し、ゲーム感覚でシミュレーションを行うこともあり、人間性や患者とのコミュニケーションが希薄になるのではないかと議論されています。



▶講演者と参加者の皆様



▶パネルディスカッションの様子

第2回

野口フェロー講演会

通ってきた道、いまに伝えたい

野口医学研究所の米国臨床留学を経て日本の医学会で活躍している先生方が、どのようにして現在に至っているか講演をして頂きます。野口医学研究所がどのような支援を行っているのか、日本の医学会にどう貢献しているのか具体的に分かる非常に貴重な機会です。

2019年
12月7日(土)13:30~16:30

※16:30~17:30 交流会

会場 東京医科歯科大学 お茶の水医学会館
東京都文京区湯島1-5-34

対象 野口医学研究所の医学交流活動に興味がある方

参加費 無料(ただし事前登録必要)

定員 70名

講演者



金城 紀与史

沖縄県立中部病院 総合内科
▶1996年研修 (Thomas Jefferson University)



八重樫 牧人

亀田総合病院 総合内科 部長
▶2000年研修 (University of Hawaii)



平岡 栄治

東京ベイ・浦安市川医療センター
総合内科 部長
▶2000年研修 (University of Hawaii)



藤吉 朗

和歌山県立医科大学
衛生学講座 教授
▶2001年研修 (University of Hawaii)

記念講演



片岡 仁美 医学教育振興財団 懸田賞を受賞して

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
▶2000年研修 (Thomas Jefferson University)

■申し込み方法

参加者希望の方は右のQRコード又はホームページよりお申し込みください。

締め切り▶12月5日(木)



あの頃の「肝油ドロップ」を、もう一度。

肝油ドロップはもはや、こどもだけのものではない?!

おとなの肝油ドロップは、高齢者のための総合的な栄養補給にフォーカスし、ビタミン類に加えて、鮫肝油エキス、葉酸、乳酸菌など、独自の成分を配合しました。



- 深海鮫肝油
- 乳酸菌
- 葉酸

こどもも
食べれます!

えっ?!
おいしい!



全国の薬局・ドラッグストアで順次販売中!

参考売価: 1,480円(税抜)



野口英世記念

野口医学研究所

Noguchi Medical Research Institute Since 1983

NOGUCHI TIMES Vol. 26

発行日	2019年10月17日
発行人	浅野 嘉久
編集	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-12-9 スズエ・アンド・スズエビル 4階
	代表電話 03-3501-0130
	株式会社野口医学研究所
	http://www.noguchi-net.com
